

平成26年度 第1回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日 時：平成27年2月6日（金）14：00～16：00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：林委員、佐渡友委員（事務局）井端事務局長、森下主幹
- IV. 資料

- ・平成25年度第2回議事録概要
- ・公益社団法人私立大学情報教育協会 平成26年度事業計画書
- ・平成26年度委員名簿

①平成26年国際関係学グループの活動計画

②対話集会に関する検討事項(メモ)

③参考 政治学教育アクティブラーニング研究対話集会開催要項

参考1：用語集

参考2：長崎大学 教育イノベーションセンターアクティブラーニング事例集1

参考3：長崎大学 教育機能開発センター紀要第3号付表1 P82~P85

参考4：学ぶ育む 大学の實力現場を歩く「双方向型授業」読売新聞2014.2.7

参考5：「学長アンケート」日経新聞 2014.4.7

参考6「大学1年生難題で覚醒」（日本経済新聞2013年2月6日付）

追加 山梨大学反転学修資料

追加 アクティブアクティブラーニング研究対話集会の開催状況

V. 議事内容

1. 平成26年度のCCC国際関係学グループ運営委員会の活動計画について

資料の平成26年度事業計画書及び資料①の活動計画により活動計画の意識合わせを行った。

・平成26年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるための検討を行い、平成27年度にアクティブ・ラーニングの研究対話集会を開催するため、共通認識を深めるため資料に基づいて議論がなされた。

①アクティブ・ラーニングの手法について

②授業デザインの重要性について

③ファシリテータの重要性について

④ゼミナールとアクティブラーニングの明確な分けについて

⑧佐渡友委員より日大におけるアクティブラーニングの経験について報告がなされた。

- ・大人数授業でもグループ討論は有効である。
- ・映像教材の重要性
- ・ファシリテーター教育の需要生
- ・プログラム化された授業の有効性

2. 本年度の対話集会の開催報告と次年度の開催計画の検討

- ・ 対話集会開催の報告が行われ、平成 27 年 7 月 4 日あるいは 7 月 18 日頃国際関係グループの対話集会を開催すること及びそのための準備について話し合われた。

国際関係学単独の対話集会を 7 月に開催し、その後複数分野（政治、コミュニケーション関係学）等との合同の対話集会に取り組むことにした。

- ・ 佐渡友委員より毛利氏（国際基督教大学）が優れたアクティブラーニングに取り組んでいることの紹介があり、話題提供の候補者として推薦さ、佐渡友委員の紹介を経て話題提供をお願いすることにした。
- ・ 事務局より国際関係委員増員の提案がなされ、佐渡友委員の紹介を経て毛利氏（国際基督教大学）に就任をお願いすることにした。

3. 次回の委員会

日時：平成 27 年 4 月末までに開催することにした。

日程は別途検討する。

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室